

第66回北海道高等学校バスケットボール選手権大会 大会展望

6月21日（金）から23日（日）にかけてインターハイ北海道予選が稚内市（メインコート：稚内市総合体育館）を中心に開催される。男子28校女子23校、計51校によって熱戦が繰り広げられる。

【男子】

優勝候補の最有力は東海大四であろう。全道新人からその勢いは増すばかり。Aブロックでは帯広北、札幌平岸の勝者が王者との挑戦権をかけた試合になるであろう。

苫小牧地区に第2シードをもたらした駒大苫小牧のDブロックは激戦が予想される。札幌地区3位ながらも昨年度優勝校の札幌日大の存在は見逃せない。また、その傍ら常連校の旭川工業と海星学院もブロック制覇を虎視眈々と狙う。

激戦区旭川地区をしっかりと1位で通過、全国も射程圏内の第3シード旭大高はCブロック。旭大高に噛み付けるのは恵庭南が有力であろう。札幌地区5位ながらも札幌地区トップ校とも肩を並べるほど力をつけてきている。

札幌予選を2位で勝ち抜き勢いに乗る札幌月寒が第4シード。このBブロックは有力校がひしめく。帯広1位の白樺学園、函館1位の函館大谷が1回戦目から好カード。勝者が札幌月寒にトライする。ブロック逆山には釧路地区では突出した強さの釧路北陽、札幌代表常連の札幌工業が全道新人の雪辱に燃え、睨みを利かせている。

各ブロックを制するのはどのチームなのか、また全国の切符2枚をかけた4強リーグでの駆け引きも見ものである。

【女子】

優勝候補は全道新人大会で圧勝した山の手高校。下級生主体のチームながら実力は群を抜いており、2年ぶりの優勝を狙う。注目が集まるのは大分インターハイの出場権のかかる2位争いである。全道新人の戦いからみて、ここ数年の中でも希にみる接戦となることが予想される。

Aブロックは第1シード山の手に対して、帯広地区1位の帯広南商業かとわの森三愛の勝者がブロック決勝でどこまで迫れるか。

Bブロックでは札幌地区2位の札幌東商業と旭川北の争いになるのか。当番校の稚内高校の健闘も期待される。

Cブロックは第3シードの旭川藤を中心に函館大妻、札幌創成、帯広大谷を絡めて激戦が繰り広げられるであろう。

Dブロックでは全道新人準優勝の海星学院が実力的には一歩抜け出しているところか。札幌地区4位の北星女子が勝負強さを発揮できるか目の離せないところである。

大会は22日の午後から各ブロックを勝ち抜いた4チームによる決勝リーグが始まる。どこが出てきても混戦が予想されるリーグ戦では、最後の最後まで熱い戦いが続くであろう。

平成25年6月14日

文責：北海道バスケットボール協会強化委員会